

基本情報						
教科・科目		数学2		・授業で使用するもの 教科書) 数学A Standard、数学 I Standard、これからの数学2 問題集) 数学+A WIDE、New Action Legend I+A 授業プリントを使用します。整理して取っておくこと。 取り組みのフィードバック、資料の共有のためにiPad を使う場合がある。		
担当者		秋本(発展)・岩本(標準①・標準②)				
評価割合(試験:試験外)		試験 :6 試験外 :4		試験外評価は、単元ごと的小テストと再テスト、授業中や家庭学習の取り組みを評価する。		
年間を通じて教科で培う力		鍛錬(知識及び技能)		関係式が作れる、命題が述べられる。 五心の定義などを正確に述べることができる。 樹形図を書くことができる。		
		理知(思考力・判断力・表現力等)		問題文からどんな数学的性質を用いればよいか、読み取ることができる。 データに合わせて代表値を使い分けすることができる。 真偽を正しく判断し、根拠を述べることができる。		
		探求・観智(主体的に学習に取り組む態度)		間違えた問題に対して、粘り強く取り組み、解答にたどり着くことができる。 自分が理解できていない内容を分析して、解決できるまで取り組むことができる。		
学習情報						
月	回	単元名	単元目標(到達状態)	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4 5	8	三角形と比 三角形の外心・内心・重心 三角形の比の定理	・相似の考え方を用いて、角の二等分線の仕組みが理解できる。 ・三角形の五心の概念を理解できる。 ・チェバ・メネラウスの定理を用いて、計算することができる。	・相似の基本的な計算の仕方をおさらいし、問題に活用していく。 ・三角形の五心の存在や位置関係についてまとめる。 ・三角形の五心の性質を用いて、角度や辺の長さを求める。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
5	6	円の性質 方べきの定理	・円の性質を理解し、線分の長さや角度を求めることができるようになる。	・円周角の定理、円に内接する四角形、接弦定理、方べきの定理が成り立つ場合について学び、線分の長さや角度を求める。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
6	定期試験① 令和7年 6月2日—6月4日					
6 7	10	2つの円 作図の方法の考察 空間における2直線 ・2平面の関係 直線と平面の関係	・2つの位置関係を半径と中心間の距離より推察することができるようになる。 ・作図の仕方を考察することができるようになる。 ・空間における直線や平面の関係をイメージすることができるようになる。	・2つの円の関係性についてまとめ、図を用いて理解し、線分の長さなどを求める。 ・実際に直線と平面の関係などを見ることで理解し、位置関係をまとめる。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
7	定期試験② 令和7年 7月9日—7月11日					
7 9 10	12	集合 命題と条件 論証	・集合の性質を知り、適切な表し方で表現することができるようになる。 ・命題の意味を理解し、文章→集合へと変換することができるようになる。 ・真偽を見極め、どの条件にあてはまるかを答えることができるようになる。	・[ ] で表すことにより、数字を整理する良さを理解する。 ・ベン図を用いて表すことにより、視認性が増すことを理解する。 ・自分で命題を設定し、真偽を説明する。また、偽の命題について反例を見つけることにより偽の説明をする。	・講義 ・演習 ・プレゼン	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
10	定期試験③ 令和7年 10月20日—10月22日					
10 11	12	確率	・樹形図や組合せの考え方をもとに、場合の数を正確に効率よく求めることができるようになる。 ・数学的な確率の考え方に基いた確率の計算ができるようになる。	・場合の数や確率の計算を反復して行い、その計算結果が意味するものを考察する。 ・同様に確からしいの意味を理解し、確率を求める計算を行う。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
11 12	5	データの散らばり	・データの散らばりに関する用語の意味を理解し、その計算式を利用することができるようになる。	・変量、偏差、分散、標準偏差、共分散の定義を確認し、実際に計算する。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
12	定期試験④ 令和7年 12月10日—12月12日					
12 1 2	12	データの相関 データの分析を利用した問題解決 仮説検定の考え方	・データの相関関係を散布図などから読み取り、相関係数を求めることができるようになる。 ・PPDACサイクルについて理解し、問題解決に利用できるようになる。 ・仮説検定の考え方を理解し、主張の妥当性について結論付けられるようになる。	・相関係数の計算式とその意味を考え、2つの変量の相関関係や因果関係を調べる。 ・目的に応じて、整理したデータをもとに図やグラフを作成したり特徴や傾向を見出したりすることで分析結果から結論を導き出す。 ・有意水準を設定し、その主張が正しいかを計算によって判断する。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
3	定期試験⑤ 令和8年 3月4日—3月6日					